

ふたりのコラム

August 31, 2020 🌸

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

連日暑い毎日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

“夏”といえば、スイカ、風鈴、蚊取り線香、うちわ、そして、蚊帳（かや）…私は、そんなことを思い出します。私が小さい頃は、蚊帳の中で寝ていました。皆さんには、トトロの世界でしょうね。



今年の夏は、昨年にも増して暑い日が多いですね。猛暑と熱帯夜が平年の2倍ともいわれています。毎日、養護教諭を中心に、随時暑さ指数を確認し、保育者同士が連携を図りながら、外で子どもたちが安全に遊べるよう、配慮しています。

暑さで外の活動ができない日は、ホールなども活用し、体を動かせるようにしています。

昔は、暑い夏でも外で元気に走り回っていましたが、当時の夏とは、格段に暑さが違いますね。

皆さんと私とでは、親子ほどの世代の違いかと思いますが、皆さんが子どものころでも、“外に出ることが危険な暑さ”は、なかったことと思います。

暑さ指数（WBGT）は人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい

①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。



さて、この猛暑の連続ですが、環境省 HP「2100年 未来の天気予報」（2019, 7更新）をご覧ください（昨年度10月のコラム「地球が泣いている」・・・で、ご紹介しましたが、昨年度ご覧になった方も、改めてご覧ください）。今年の各地の気温等を見ると、「未来の天気予報」（『1.5℃目標未達成』）に近づいていく感が否めません。非常に恐ろしい状況です……。現に今年の夏は40℃を超えた地域が複数箇所ありました。今できることを行っていかなくては、私たちはもちろん、未来を生き抜いていく子どもたちは大変なことになってしまいます。 <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/>



このまま有効な対策を執らずに地球温暖化が進行すると、2000年頃からの平均気温が最大4.8℃上昇すると予測されています。

本動画は、気候変動政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書のRCP2.6とRCP8.5のケースを想定し、また、最新の気象状況等を踏まえ、産業革命以前からの気温上昇を1.5℃に抑える目標を達成した2100年と、達成できなかった2100年の天気予報です。

子どもたちの幸せのために 「ウェルビーイング(Well-being)」

元々は、福祉や医療の分野で使われていた「ウェルビーイング」という言葉ですが、最近、ビジネスの場でも使われるようになり、特に働き方改革が社会全体で進む現在、企業内の就業環境や組織の在り方について議論する際に「ウェルビーイング」という概念を意識することも多くなってきているようです。



直訳すると、「幸福」「健康」という意味になりますが、「健康」とは、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態にあることとWHO憲章で定義されています。私たちは、全ての子どもたちの最善の利益を保障しなければなりません。それは、言い換えれば、全ての子どもたちのウェルビーイングの保障に向けた支援です。具体的には、このコロナ禍で色々な制限がある中、また、異常気象で、戸外で活動できないような日がある中・・・などでも、私たちは、子どもたちにどのような環境を与え、どのようなことを代替とし、楽しく、体も心も元気でいられるにはどうしたらよいか、ということを考え続けながら保育を行っていく、ということなのです。

今後の行事につきましても、状況を見ながら、いろいろ検討していかなくてはならないことがあります。どんな時も、私たちは、限られた環境下で、内容は変わってもねらいが達成できるよう、常にねらいを確認しながら考え、決定していこうと思っています。行事や日々の保育において、三役さんを中心とした保護者の皆様が、子どもたちのために提案やご協力をしてくださっていることを、とても有り難く感じています。

当園の保護者の方々は素晴らしいなあと思います。これからも、いろいろ考えたり、時には変更したりしながら進めていかなくてはならないことがたくさんあると思いますが、子どもたちのために、保護者の皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

新連絡システムの導入

7月の理事会だよりでもお伝えしましたが、この秋から、登降園や預かり保育、バス運行状況等と一斉メールを一体化したシステムを導入できる方向です。そして今後、書類の整理や保育記録などいろいろな保育の場面でも利用できるよう検討しています。保護者の皆様が便利に利用できることはもちろん、職員の仕事の効率化を図ることを目的としています。そのことにより、保育者が子どもたちに関わることに集中し、質の向上を図り、さらに働き方改革の一助となればと考えています。



(文責：中田)

《0・1・2歳児》

今年の夏の前半は、梅雨明けが遅くジメジメした日が続いていましたが、梅雨が明けると一転、連日の猛暑が体に堪えますね。

メイプルキッズの子どもたちは、猛暑で戸外遊びが出来ない日には、ホールで思い切り体を動かして遊んだり、保育室で新聞をビリビリちぎって遊んだりなど、開放感を味わっていました。



つい先日、やっと熱中症指数が低くなり、久しぶりに戸外で遊ぶことが出来た子どもたちの表情は、とてもいきいきしていました。ホースでミストシャワーを楽しんだり、ペットボトルシャワーを楽しんだり、水に濡れて気持ちよさそうでした。

また、園庭の木に残っているセミの抜け殻を見つけて、大喜び！！久しぶりに夏ならではの遊びを満喫できたようです。

今後も天気の様子を気にしながら、水遊びや戸外遊びを楽しめたらと思っています。



最近のちょっとうれしかった話をしたいと思います。マザーグースに参加されている1人の方が「自分の時とは変わったなー」とつぶやいたのを聞き、私が思わず「卒園生ですか？」と声をかけると「はい」との返事、旧姓を聞いた途端、すぐに名前が浮かんできて、「もしかしてKちゃん？」と聞くと、「はい、え？覚えてるんですか？」と驚いた様子でした。続いて私が「お母さん、元気？」とたずねると、「はい、母もりえ先生まだいるのかな、会いたいなと言ってました」とのことでした。このKちゃんのお母さんには、私がまだ保育者として駆け出しの頃、いつも声をかけてもらったり、色々とお支えしてもらったり、助けられることも多く、印象深く残っていました。そしてつい先日、Kちゃんのお母さんも園に来る機会があり、久しぶりの再会が出来ました。「りえ先生、ずっとがんばってるんですね」と声をかけられ、懐かしさと嬉しさでいっぱいになってしまいました。

「また、孫がお世話になりますね」と言われ、時が経っても、園を通して、こうした「つながり」が続いていくんだな～と感慨深いものがありました。

余談ですが・・・最近、会話の中で「あれ、あれだよ」とすぐに名前が出てこないことが多く、忘れっぽくなったかな？と感じていたのですが、不思議と昔のことはよく覚えていて、今回のKちゃんもすぐに名前が浮かんできました。これも老化現象？なんて思ったりもしましたが、きっと、楽しく充実した日々は記憶として残っていくんだろうな～と勝手に納得し、衰えを認めたくない自分がいました（笑）。

さてもうひとつの話を・・・

卒園生の子で、時々買い物など会う子がいるのですが、先日も久しぶりにお店で遭遇しました。すっかり背も伸び、お母さんに追いつきそうな勢いで、もう高学年だな～とたくましさを感じました。

その子は、あかみ幼稚園からは1人で入学ということで、お母さんも心配されていました。私も気になっており、合うたびに近況を伺ったり、「何かあれば遠慮なく、相談に来て下さいね」と声をかけたりもしていました。

入学当初こそ、戸惑う姿もあったそうですが、その後は、お母さんもびっくりするくらい、色々な面で積極的に学校生活を満喫しているようで、安心しているとのことでした。以前会ったときに、そのお母さんから、「大人しくて、あまり自分の意見を言えない子だと思っていたけど、本当にたくましくなり、周りの子のこともよく考えて、自分達でなんとかしようといつもがんばっている。これも、幼稚園時代の色々な経験と、それを支えてくれた先生たちのおかげだと思っている。」というような内容のことを言われました。

確かに、少し控えめな子だったので、お母さんからこの話を聞いたときに、その成長ぶりと同時に、園の保育への理解が嬉しかったのを覚えています。

卒園しても、園との「つながり」が続き、子ども達の成長を保護者の方と喜び合えるのは、私達保育者にとって何より嬉しいことです。

毎年、あかみ幼稚園から1人で小学校へ入学する子も何人かいます。保護者の方は、1人で大丈夫かしら？と心配されることと思います。

でも、この卒園生のように、子ども達は園の生活の中で様々なことを学び、力をつけていきます。始めはちょっぴり不安でも、その後は充実した学校生活を過ごすことができるでしょう。



保育所保育指針、認定こども園教育保育要領では、幼児期の終わりまでに育て欲しい10の姿として次のように示しています。

①健康な心と体 ②自立心 ③共同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、認識や文字などへの関心、感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

小学校教育では、教科ごとの学習をしますが、就学前の園生活では、様々な環境を通して行う保育の中で10の姿を育むことが望めます。こうした姿は、年長組になったから身につくものではなく、赤ちゃんのときからの愛着関係が基盤となり、遊びや生活行為の中で育まれていきます。また、こうした姿は幼児期の終わりまでに身につけるべきものではなく、小学校以降も継続して育てていくものです。乳児期から幼児期そして小学校の教育までつながって行く中で、子ども達がすこやかに成長できるよう、私達保育者は、遊びや生活の中で、子ども達にどういった姿が育っているのかをより深く理解し、援助していくことが望まれています。

(文責：新井)